

社会福祉法人扶助者聖母会
星美ホーム 広報委員会発行
〒115-0053 東京都北区赤羽台4-2-14
TEL: 03-3906-2711 fax: 03-3906-2606
HP: <http://www.seibi-home.jp>
Mail: info@seibi-home.jp
<http://bosco.cocolog-nifty.com/100mt/>
(海拔0からの挑戦:百名山)
カトリック精神を基盤にした児童養護施設です。

星美ホームだより

Seibi-Home newsletter



子どもたちとともに

施設長 熊本幸子

いつも星美ホームのため祈りをはじめ物心両面からのご支援をたまわり有難うございます。今日は星美ホームの職員であるわたしたちが日々こころして励んでいることを記してみたいと思います。

わたしたちは、ここ数年間、理念に基づく児童への支援をするために、創立者の言う家族的精神の下、一丸となって努力してまいりました。ちなみに、私たちの理念を一言で申しますと「私たち養育者が子どもたちのために一所懸命尽くすだけでは足りない。子どもたち自身が、私たち養育者から大切にされていることを感じるほどの支援をする」ことです。

特に現代は、心に傷を負って入所してくる子どもたちが多く、基本的信頼関係の欠如による、愛着が形成されていない実情を踏まえ、理念の実践によって愛着の再形成を図ろうとするものです。

そのために職員は階層別研修や一泊研修などでそれに関しての学びを深め、その方法や対策について話し合ってきました。園のルールを無くし、職員と子どもの信頼関係を図るようしていくことは頭で考えるより、はるかに難しいことを現場のわたしたちは、みな体験しています。信頼関係を構築するためには、子どもたちのあらゆる試し行動、その挑発的な行動に乗せられない

いようにすることや、そういう子どもたちであっても見捨てることなく徹底的に受容していくことの難しさがあります。

しかし、職員同士が励まし合い、支え合いながらそれを実践しようと努力してきたことよって、第三者評価のアンケートによる子どもの満足度が上がったことも事実です。

子どもたちにとっては親の愛、家庭内の愛に勝るものではありませんが、ホームの中で子どもたちが自分たちの居場所を見つけ、満足して生活し、愛され大切にされていると感じることができるようにと、日夜わたしたちは励んでいます。

最後にお知らせですが、今年度、敷地内の一部の建物を解体し、男子6人のグループと女子6人のグループのために2軒のファミリーホームを建てることにしております。住み込んで働く職員もいますので、小規模で家庭的な環境でのより良い支援が期待できます。

皆様方からのご支援、ご鞭撻に感謝し、皆様方とご家族の上に神の祝福と聖母のお助けをお祈り申し上げます。



ありがとうの会 3月19日

卒業・就職おめでとう。

退園していく子ども達を囲み、
ホーム全体でお祝いしました。

進路情報 ◆就職

- 興和電気工事株式会社 1名
- 株式会社 カクヤス 2名
- 株式会社 ヤオコー 1名



卒園生に送ることば・楽曲



星美ホーム運動会
2017年6月4日



「とったせ！」



「騎馬戦」



「リレー・「スタートは年長さん、担当職員と一緒に。」



「借り物競争・何を借りたのかな？」



「むかで競争・ガンバレー！」



星の子キッズ ボランティア

星美ホームには、子どもたちを支えて下さるボランティアの方がたくさんいらっしゃいます。今回は、その中から、『星の子キッズ』の皆様をご紹介します。

成り立ち…1992年より各児童養護施設で活動していたNPO法人KIDSの1プロジェクトとして活動を開始し、2004年に「星美キッズ・ボランティアグループ」として独立しました。2006年に「星の子キッズ・ボランティアグループ」と改名し現在に至っている。

私達星の子キッズは、星美ホームへ定期的に訪問し、主に小学生を対象に遊びと学びの活動を行うボランティア団体です。星の子キッズのメンバーは50名から60名で、社会人、学生、主婦など様々な職業や年代のメンバーが在籍しています。基本的に月1回、小学生とボランティアの大人が1対1のペアを作つての遠足や、施設内で遊びながら学ぶことを目的とした体験型の企画を行っています。

私達は星美ホームの子どもたちとの継続的な交流を通して、
①様々な体験や思い出作りを通して子どもたちとの信頼関係を深める。
②子どもたちが社会の一員として巣立っていけるよう厳しくそして温かくサポートする

ることを目的として活動しています。

一年を通して様々な企画や遠足を行っていますが、室内企画では芸術家の先生を招いてのアート企画、職業体験企画、お料理企画、国際交流企画などを行っています。遠足では電車マナーなどを一緒に学びながら公園や博物館へ出かけ、ボランティアの大人が作ったお弁当と一緒に食べコミュニケーションをとっています。

星の子キッズ代表 中島希和



ドン・ボスコの理念に基づく 子どもとの関わりを振り返る。

期日…5月17日～18日

ケアワーカー 高沢 英憲

星美ホームにおいて、様々な変革の時期を迎えるなかで、改めて原点に立ち返り子どもとの関わりを見直していこうという流れの中で、約2年ドン・ボスコの予防教育法を理解する研修が行われてきました。3年目となった今年、山中湖にて行われた宿泊研修に参加しました。主にクラスリーダーという立場の職員が参加し、2年間学んできた理念をより深めていくための研修となりました。

「共に生き、愛されていると感じるように愛しなさい」という言葉の中にドン・ボスコの求めた教育者としての在り方が語られており、私たちはその言葉の本質を、現場で体験している事柄や浦田神父様からのドン・ボスコの手紙をテーマとした講話、そして園長先生の現場時代の経験談を聴くこと、そこから感じたことをお互いが分かち合うことで理解を深めていく機会となりました。

共に生きるという姿勢は、子どもたちの生活に大人が関心を持ち、単純な世話係ではなく興味をもって同じ目線に立ち、子どもたちのために精一杯尽くす努力をすることであること、子どもたちの個性や抱えた問題に興味を持ち、理解しようとする必要があること。

愛されていると感じる関わりにおいては、子どもたちを大人の尺度で常に図るのではなく、子どもたちの考え方や価値観、ものの見方を理解しようとする、共に生活する日常の中で、責任ある年配の友人として、問題解決や正しい判断に基づく適切な助言をし、間違った判断や行動を時に賢明さと厳しさをともなって正していく必要性があること。

それらを実践するために、日常生活の何気ない子どもたちとの会話や一つ一つの出来事を大切にしていくこと、子どもたちを理解するために個人の価値観にとらわれないうようにすること、そして子どもたちの未来を信じることの大切さを改めて振り返る機会となりました。子どもたちの過去を知り、未来を想像し、今大切なことを伝えていく、そこに対話、納得、一致があるように、それを神様が導いてくれると信じていくことを再確認しこれからの子どもたちとの新たな出会いと生活を共に生きられたらと願っています。



リーダー研修会

in カジアンスタース 山中湖霊性センター

新任職員紹介

今年は8名の新任職員を迎えました。富士を望む山中湖畔において、4月からの振り返りや、分かち合い、熊本施設長の講話から創立者の理念を深め学ぶ機会となりました。



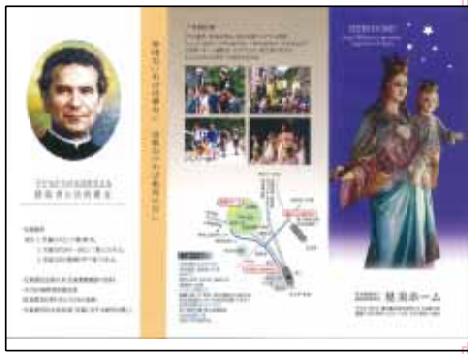
新任職員研修会 in カジアン・スタジオ 山中湖霊性センター

平成29年度 苦情解決第三者委員紹介 (あのね委員)

- ・北区更生保護女性会(保護司)
関 晴 美 様
- ・星美ホーム協力者
奥 野 純 子 様
- ・星美ホーム協力者
松 本 敦 子 様
- ・星美ホーム協力者
杉 本 隆 庸 様



ホーム運動会にもご参加頂き、子ども達に紹介することが出来ました。
「学習ボランティアに来ていただきますので、いつでも、話に来てください。」等々、ご挨拶を頂きました。
どうぞ、宜しくお願い致します。



星美ホームの新パンフレットが出来上がりました。

年間行事予定

- ◇ 7月21日～25日
中学生女子キャンプ 長野県
- ◇ 7月24日～28日
ロッククライミング・登山縦走など
新潟県/長野県
- ◇ 7月24日～29日
ロッククライミング・沢登りなど
- ◇ 8月2日～14日
低中学年海水浴 石川県・能登
- ◇ 8月2日～17日
秋田県能代～八幡平～岩手山～太平洋
静岡県
- ◇ 8月21日～23日
特別支援キャンプ(高校生) 滋賀県
琵琶湖1周・伊吹山登山
- ◇ 12月23日
幼児年長海水浴 千葉県富浦・犬吠岬
- ◇ 12月23日
クリスマス聖劇
- ◇ 3月18日
24日
クリスマスミサ・パーティ
ありがとうの会(送別会)



聖岳登頂



青木湖畔

星美ホームの窓

ファミリーホーム 開設にむけて

星美ホームの中長期計画において、平成30年に2棟の法人型ファミリーホーム(小規模住居型児童養護事業)の開設を計画し新築準備を進めています。来る10月より着工の運びです。ファミリーホームには専属の住み込み職員が配置されます。

より家庭的養護の促進を進め、一人ひとりの子ども達が大切にされていると感じられるような養育を目指します。



国型地域小規模施設
マリアハウス開設
(北区赤羽台)

富士山二号目にある
「富士の聖母」
グループホーム遠足

